

会 議 録

会議の名称	第3期 小金井市地域自立支援協議会（第3回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成24年9月18日（火） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	小金井市役所第二庁舎 802会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>高橋智委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、鈴木日和委員、熊倉弘子委員、中村悠子委員、秦郁江委員、馬場利明委員、森田史雄委員、ボーバル聡美委員、堀池浩二委員</p> <p>【事務局】</p> <p>障害福祉課障害福祉係長 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係主任 北村奈美子 地域生活支援センターそら 伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

第3期 第3回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日時：平成24年9月18日(火) 14:00～16:00

場所：小金井市役所 802 会議室

出席者：協議会委員 10 名

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係主任

地域生活支援センター そら

配布資料 1： 第3期自立支援協議会 今後のスケジュール予定（イメージ）・・資料1

2： 災害対策を考える（学校の対応は・・・）・・資料2

3： 平成24年度小金井市総合防災訓練実施計画

4： 小金井市災害対策本部組織図（災害応急対策計画より）

5： ～災害の発生に備えて～東京都における障害者団体調査の結果

6： 学校要覧 平成24年度（東京都立小金井特別支援学校）

7： 都立小金井特別支援学校危機管理計画（事故等対応マニュアル）

1. 開会

事務局 （藤井係長）	・開催にあたり、配布資料の確認。 ・大久保委員、森田（純）委員の2名より、欠席の連絡が入っている。 ・就労機関推薦者の斎藤委員について。先日、一身上の都合により、協議会委員の辞退の申し出を受けたことにより、改めて就労機関へ推薦依頼を行なった。就労支援センター「エンジョイワーク・こころ」で就労支援コーディネーター等を行なっているボーバル聡美氏の推薦をいただき、斎藤委員の任期を継ぐ形で、9月1日付で委嘱した。
ボーバル委員	・よろしく願いしたい。
事務局 （藤井係長）	・なお、ボーバル委員へは急遽の出席依頼となり、業務の都合上、本日は14:30にて退席予定。

（3）次回以降のスケジュールについて

高橋会長	・本日の会議は、出席者10名となり、本協議会は成立。 ・先に、前回の会議の確認のため、次回以降のスケジュールについて確認する。資料1の確認をお願いしたい。 ・3つのテーマとして、「防災」「発達支援」「相談支援」を検討する。1つのテーマについて3回協議し、まとめていく形。 ・本日から「防災」についての検討に入る。 ・このような形で進めていきたいと考えている。
一同	・異議なし。
高橋会長	・各テーマの初回は、行政の関係者からの話を聞くという形とする。 ・部会の開催については、各担当者間で検討をお願いしたい。部会で話合った

	<p>ことは、全体会で報告していくことに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見等あればお願いしたい。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。

2. 議題

(1) 事例報告

ア：市防災訓練における災害時要援護者支援モデル地区（貫井南町東自治会）避難訓練の報告

高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起として、本日は3つの報告をさせていただく。 ・市防災訓練における災害時要援護者支援モデル地区（貫井南町東自治会）避難訓練の報告について、堀池委員より報告をお願いしたい。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に沿って、説明させていただく。 ・小金井市では、去る8月26日（日）の午前9時から11時15分に市内全域と南中学校、都立小金井公園で防災訓練を実施。 ・想定としては、午前9時に多摩地域に震度6弱以上の直下型、マグニチュード7程度の大地震を想定した訓練。 ・P.2の下から三つめの枠「災害時要援護者対応訓練」を今回初めて実施した。小金井市、警察署、民生委員、自主防災組織、介護事業所、社会福祉協議会の6つが協同。この訓練は、あくまでも災害時要援護者に限った防災訓練だった。 ・市が災害時支援担当として本部を設置し、加えて、安否確認担当、福祉避難所担当も設置。民生委員、貫井南町東防災会、介護事業所は、災害時要援護者の名簿登録をされている自宅へ安否確認を行なった。所在の確認を記載していくが、確認できなかったところは、空欄となる。一人あたり、20名程度訪問。南中にあるブースに名簿を提出し、報告。安否確認ができなかった方については、一覧表を作成し、それを警察へ依頼し、民生委員と共に貫井南中へ回っていただいた。 ・災害時要援護者として、ブースに来られた方は、第一義的な福祉避難所へ入ってもらふ。福祉避難所担当と、今回は介護事業所がメインに関わっていただき、相談や識別救急を行なってもらった。 ・福祉避難所で識別救急を行なった結果、一義的な福祉避難所では対応できないという方を福祉避難所となっている「あんず苑」へ車で搬送。文書をつけた形で第二次の福祉避難へ依頼した。 ・災害時要援護者の訓練として、実際に民生委員や障害福祉課が動く機会となった。台本の中で行なったが、意思決定を誰がどう行なうのか、受け入れなければならない人がこれ以上増えた場合、必要な人員体制は何人になるのか、福祉避難所での相談体制、責任者の立ち位置、責任者が動いてはいけないということなど、実践を通して細かい課題が多く見えてきた。有意義な時間だった。 ・安否確認担当として、藤井係長が担当した。
事務局 （藤井係長）	<ul style="list-style-type: none"> ・台本はあったが、災害時の際には報告が殺到する。今の仕組みのままでは、対応できないのではないかと考えた。システムや体制作りは、今後の課題だということを再認識できた。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所担当として、高田係長が担当した。
事務局 （高田係長）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所としては、体育館。教室が福祉避難所となる。福祉避難所で対応できない場合は、先程の報告にあった「あんず苑」などの福祉施設の利用となる。福祉避難所で対応できないことを、最終的に誰が判断するのかというところは

	<p>疑問に感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の方が福祉避難所ということをおまにも知らない。実際、避難するとなれば公的な場所へ避難するというのが一般的な認識。一般の方が、福祉避難所として指定されていることを知らない、そこへ避難してしまう。日頃から、福祉避難所というのは、どのような場所であるのかという意識啓発の必要性があると感じた。この部分の意識付けをしておかないと、収拾がつかない状況になるのではないかという懸念がある。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課では、今回の訓練で出されたいろいろな課題等をまとめ、今後検証していくという予定。来年度の防災訓練へつなげていこうというところ。 ・小金井市災害対策本部組織図を確認してほしい。企画財政部から教育に至るまで組織されている。 ・11月には、地域安全課の職員に出席を依頼する予定。どこかの課だけが突出しているのはよくない。障害の分野には、学校も教育も関係している。縦割りではなく、連携を強化していきたいと思っている。 ・東京都から出されている地域防災計画等との整合性をはかる形で、小金井市も作成している。今年度、東京都の地域防災計画を修正するにあたり、障害者団体へアンケート調査を実施。アンケート調査のまとめは、ホームページに掲載されている。今後、小金井市の地域防災計画の改訂の作業に入ると聞いている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・内容について、ご質問等あればお願いしたい。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一時避難の中には、必ず福祉的な避難所があつて、そこを経由して二次避難所へ行くという流れなのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回想定したのは、一時避難所となっている小学校・中学校へ、まず避難。福祉避難所が必要となれば、障害者センターや生活実習所、特別支援学校等へ行ってもらう予定ではあった。ただ今回の訓練は、災害時要援護者の訓練であったため、一時避難所の中では、対応できない対象者のために、部屋を借りてそこへ避難してもらう対応を行なった。そのような別棟を設定し、その次の段階として、医療的なケアなど個別の対応が必要となった場合に次の避難所へと移動。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所として掲載されていたため、初めから、福祉避難所が適当だと判断した場合は、福祉避難所へ行くということだと思っていた。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうではない。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の訓練で、建物の倒壊がどの程度の想定なのか、火災の発生率は何パーセントなのかなど、どの程度で想定されているのか。今のような想定では、ほとんど機能しないと思われる。 ・震度6弱では、3.11の時の揺れが少し強くなった程度の想定。そうではなく、東日本大震災や阪神淡路大震災をあてはめるぐらいではないといけない。建物の倒壊と一番恐れるのは火災。火災が起こった場合、市内の小・中学校では危険。周囲から火災が発生すると、一挙に何百度という温度で周囲が包まれる。小金井市で意味ある避難所としては、学芸大学か小金井工業高校（現：多摩科学技術高校）。ましてや福祉避難所へ避難した場合はアウトだと思う。 ・今のような想定では、殆んど意味のない避難訓練だと思う。想定は大事。 ・気仙沼は、津波もあつたが、一番ひどかったのは、その後の火災だった。ベイエリアは、津波と石油タンクによる火災。小金井市の場合は、家屋の倒壊と

	<p>火災。防災のプロに来てもらい、話を進めないといけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都内の小学校のプールは、屋上にある。火は、舐めて上がっていく。空襲の時に、隅田川が沸騰したような状態。地上にプールがあれば、そこへ逃げ込むことはできるが、屋上ではそれができない。体育館への避難となれば、蒸し焼き状態になってしまう。まず、何とか助からなければならない。助かった後の問題として、福祉避難所などの話が出てくることになる。 ・震度 6 弱以上でマグニチュード 7 程度だと、怪我がなくてよかったというような状況で済んでしまう。想定に疑問を感じる。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・火災想定は、多摩直下の人的被害に記載されている 126 人で実施しているのではないのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の想定までは、細かく確認していない。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・先日の事務局会議で、矢野委員から特別支援学校でチューブレスタイヤのリヤカーを購入したとの話があった。本当に必要なことだと思う。実際に倒壊した建物の上を移動することになり、車は複数がパンクする状況になる。そのような想定が必要なのではないか。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・車での移動はできないのではないのか。先程、「あんず苑」に車で移動したとの話があったが、倒壊する建物の存在や迂回ルート、人手などの検討が必要なのではなか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・同様の意見が民生委員からも出されていた。 ・民生委員の方が、各地区で防災の訓練を実施している。防災の意識の高い自治会では、独自にリヤカーの購入など準備をされている。地域での格差はある。そのような地区の民生委員からは、市に対して購入の要望も多く出されている。
熊倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区の設定の理由として、貫井南町が防災意識の高い地域と伺ったが、その地域で見えてきた課題などを市内全域に導入していくということなのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題があり、なかなかモデル地区と設定することが難しかった。地域防災と自治会としてのつながりの強さがあるところを中心に声をかけてきたが、モデル地区となってもらえる地区はなく、難航した。 ・ネックとなったのは、自治会に入っていない方をどのようにするかということだった。しかしその部分については、自治会からはそんなことは関係ない、同じ地区に住んでいるのだから自分たちが見ると言っていた。 ・自治会への加入率は低い。要援護者でも 2～3 割程度。一軒家に住んでいる高齢者で家族がいた場合、支援者がいると判断され、要援護者から外れる。 ・自治会のない地域もあるため、そこをどのようにしていくのかということも課題。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩直下型で災害発生時は、周辺地域も被害を受けているため、助けがこない。独立自衛で切り抜けないといけない。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の見守り、地域の絆が大事になる。コミュニケーションが希薄となっている今、その再生がようやく始まったところ。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市での心配は、高橋会長の話の通り火災だと思っている。小金井市はビルが少なく燃えやすい家屋が多い。逃げた一時避難所が火に囲まれ危なくなることもある。小金井公園や学芸大学が安全だと個人的には思う。火災の時は責任をもって判断する人が必要と考える。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・広域避難所へ行くのが一番よい。一時避難所に行ってしまうと、分断され動けなくなってしまうこともある。多くは、一時避難所と思っている。誤った考

	えになっているということになってしまうが、全員が広域避難所に避難できるわけではない。それに代わる場所をどこに想定するのかということが重要になる。 ・私立の大学も多くある。その積極的利用が必要。小・中学校は危険。
熊倉委員	・順番として、広域避難場所へ避難できない時に、一時避難所に避難するというのか。
高橋会長	・自分にとって避難する場所がどうなのか、ということ判断して避難する必要がある。
馬場委員	・小金井公園の総合体育館を福祉避難所に指定することはできないのか。
堀池委員	・異なる役割があったような気がする。
馬場委員	・そこを福祉避難所に指定するべきだと思うが。
堀池委員	・確認する。

イ：小金井特別支援学校における災害時のケース報告

高橋会長	・続いて、矢野副会長より報告をお願いしたい。
矢野委員	・配布した学校要覧は、参考としてご覧いただきたい。 ・目次のみ参考資料として、提出させていただいた。 ・前回の会議で提出した書式に沿って、3.11 の状況をあてはめ、資料2を作成した。～資料2の内容報告（省略）～ ・特別支援学校の二次避難場所は、上水グラウンドになっている。実際に上水グラウンドへの避難訓練は、年に1回実施している。 ・小金井市との福祉避難所の協定を結んだということは聞いているが、具体的な内容については、まだ周知されていない状況。 ・一小と二小のグラウンドに備蓄倉庫のコンテナが設置されているが、それだけでは足りない。上水グラウンドへの設置もお願いしたいところ。 ・東京都がからむと、賃借契約を結ぶ必要があり、簡単なことではない。 ・当日の状況を思い出しながら、表にあてはめ、皆さんもまとめていただけたらと思う。
高橋会長	・小金井特別支援学校のプールはどこにあるのか。
矢野副会長	・グラウンドにある。常時満水の状況にはなっている。 ・二小と合わせて、防火用水となっている。道路が狭いため、倒壊した時に吸水車が入ってこられるのかということとは不安。
高橋会長	・プールは、防火用水だけではなく、子どもたちを火から守るスペースとして必要。
矢野副会長	・グラウンドを広げるために、建て替え時にプールを屋上にしようかとの話が出ている。
高橋会長	・問題なこと。
矢野副会長	・まだわからない。現場の職員へのアンケートは取っているが、どこまでその意見が反映されるのかは疑問。
高橋会長	・そうは言っても、学校が一番進んでいる。学校は、避難訓練も定期的に実施されている。
矢野副会長	・毎月実施している。8月の終わりに災害講演会として、福島の中村校長先生に来てもらいお話を伺った。 ・学校が近所の人たちを受け入れなくてはならなくなる。そこへ、県や市の職

	<p>員が来てくれるのかといえば、そうではない。電話をかけても通じない。現場の教員が判断して動くことになる。職員も家族の心配を抱えながらも、対応せざるを得ない状況になる。不休不眠の対応。地方の場合の教員は、あまり異動はない。長くいる顔なじみの先生が出向いて行くと、貯蔵している農作物を提供してもらえた。救援物資よりも命をつないだのは、農家の人たちの支えだった。</p> <p>・東京の場合は、備蓄はない。冷蔵庫の中にある程度。小金井にある農家では、到底そこまでできない。食糧対策は重要。</p>
鈴木委員	・帰宅難民受け入れ用に旗と照明を設置したとのことだったが、旗というのはどのようなものなのか。
矢野副会長	・のぼり旗で帰宅困難者待避場所という旗が東京都から支給されている。
鈴木委員	・通ればわかるのか。
矢野副会長	・見えるようにするよう指導が出ている。ただ、特別支援学校は街道沿いではないため、わからないかもしれない。
鈴木委員	・今回見ることはなかったため、どのようなものなのか知りたかった。
矢野副会長	・科学技術高校や小金井北高校などの都立高校では立てていたはず。
鈴木委員	・帰宅困難になった場合には、それを目印に探せば入れてもらえるのか。
矢野副会長	・帰宅できなくなったという状況であれば、そこに備蓄されている水や乾パンなどが支給される。
高橋会長	<p>・今回の東日本大震災では、学校が命の砦だった。避難所になっていない学校も多く、自前で食糧の調達を行なった。半年近く、自宅へ帰れなかった教員も多くいた。それでも、農作物で大変助かった状況だった。東京では、そうはいかない。動脈は遮断される。どこからも食糧や水は入ってこない。自立自衛しなくてはならない。</p> <p>・誰が 12 万人の人口を支えるのか。1 週間の想定ではなく、2 週間ぐらいを想定し、水や食糧の供給をどうするのかということが急務であるが、その部分が不十分だと感じる。避難所の問題もあるが、水と食糧をどのように確保するのかということが課題。他からどうすることもできない。</p>
矢野副会長	・小金井市は、湧水地域ではあるが、そこが地震の状況でどのようなになるのかわからない。水を汲み取って確保できるのか、研究しておく必要があるのではないか。そのパイプラインの確保も重要。
高橋会長	・井戸をどこまで掘っているのか。
堀池委員	・不明。
高橋会長	・井戸が重要になる。井戸を掘って、緊急時にそこから水を確保できる状況にしておくことは必要。
矢野副会長	・浄水装置さえあれば、活用できる。

ウ：東北 3 県における実態調査報告

高橋会長	<p>・資料を回してほしい（別紙参照）。パワーポイントを使用し、報告させていただく。</p> <p>・この問題の専門ではないが、昨年の 5 月と 8 月に調査に行ってきた。調査の場所は、同じ所。5 月と 8 月で何がどう違っているのかを調査した。</p> <p>・子供の命を守ったのは、教師の存在だったということを改めて感じた。</p> <p>・釜石は比較的被害は少なかったが、半年ぐらいは避難所生活を余儀なくされ</p>
------	---

ていた。生死を分けた釜石の奇跡と言われている状況があった。生徒たちは、避難訓練を行なっていて、教師の指示のもと「てんでんこ」に一気に逃げた。中学生が小学生の手をひいて山に駆け登った。学校にいた子供たちは全員無事だった。亡くなったのは、当日学校を休んでいた子供や親が大丈夫とって、自宅 2 階への避難にとどめた子供だった。親に対する防災教育をどうするのかということが必要。

- ・どのような質の防災教育を行なっていくのかということが要になる。火災の想定と瓦礫の山を想定した避難訓練が実際に行なわれているかどうかということが大事。消防士が着ているような防火用のコートを着用していなければ、あっという間に火が回り、丸焼けになってしまう。

- ・瓦礫は小さかった。波の力で壊され、全部海に持っていかれた状況だった。

- ・同じ町でも、ある土手から先は、犬の散歩をしているような平穏な状況。これが、被災された住民とそうではない住民のいさかいのラインとなった。食糧を提供しなかった。避難地域は、数日間は食糧難だったが、その後次々と物資が運ばれ潤った。食糧格差が生じ、お互い反目しあうような状況になり、食糧をシェアしなかった。平穏な地域は、何とか自前で生活をしていたが、足りない場合は宅急便で外から送ってもらうような状況になった。それでも、子供は同じ。いさかいをなくすためにも、教育は必要。

- ・阪神淡路大震災の影響による不登校のピークは 3 年後だった。PTSD の子供はいるが、まだ、気が張っている状況の子供たちは多くいる。来年ぐらいに PTSD の大きな山がくるのではないかとされている。心理カウンセラーがたくさん導入されている。

- ・避難者自身がボランティア活動を積極的に取り組んでいた。

- ・気仙沼は、火災の影響が大きくあった。これが、大きな死傷者を出した原因だった。石油の備蓄タンクが流れ、それに火がついた状況だった。タンパク質の焼け焦げる匂いが漂っていた。

- ・震災孤児も多く、学校の再開に向け動きたかったが、学校は避難所として使用されているため、避難所の解消がなかなかできなかった。一旦受け入れたら、出すことができない。入口のところでさばかないと無理。全部の避難所に福祉避難所はできないため、福祉避難所の機能が果たせるように手配しなければならない。一度埋まると動かせない。苦慮しているところ。

- ・学校が避難所となっているため、子供たちが遊ぶところがない。神社で遊んでいる子供たちへ声をかけると、物は何もいないけど、思いっきり「警ドロ」をやりたいと話していた。子供たちの行き場所がない。学校の機能をどうするのかということも課題となる。

- ・流木にあたって、内出血となり、血栓症を発症。ほとんどが気づかれないため、高齢者などへは血栓をはかる機械で測定していた。

- ・検証はまだきちんとできていないが、本当に食糧不足だった。学校給食が再開されたのは、6 月ぐらいだった。それまでの 3 ヶ月ぐらいは、簡易給食でパン 1 ヶにジャムと牛乳ぐらいだった。避難所でもお弁当程度だった。そうすると、育ち盛りの子供たちが慢性的にビタミンやタンパク質の欠如となり、それが身体的ダメージを与える状況になっていると思われる。米があればよいという問題ではない。栄養補給の面で、サプリメントの確保の検討も必要になる。

- ・釜石市では、校舎の建設の検討に入っているが、水に浸かったところに戻りたくないという考えと、元の地域に戻りたいという考えがあり、本校舎の建築

	<p>については、議論の最中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災孤児については、臨床心理士を派遣し、心のケアについても半年が経過したところで動き始めた。 ・震災後教育に力を入れる必要がある。PTSD の問題も含め、今これからどのようにしていくのかということを中心に取り組んでいる。中学生を中心にボランティア活動が活発に。被災した中学生が被災した場所の高齢者のためにボランティアをしながら、地域を自分たちでしっかりと発展させていくという動きになっている。 ・小中学校を複合するとか、給食センター一括ではなく、各学校に給食室を配置する、自家発電装置を設けることが必要。地域住民含めて、備蓄を行なう必要もある。 ・車がショートして火災が発生した状況もあった。車問題は重要。 ・防塵対策として、各教室に空気清浄機を設置。アスベストも舞っていた。壁が真っ黒になっていたのは、大量のハエだった。衛生環境の問題も重要。 ・教育復興が地域復興にも重要。多くの大人たちは、避難したがもう一度地域に戻ってきている。 ・気仙沼は、陥没してしまった影響で、満潮になるたびに浸水し、なかなか再生に至らない状況にある。 ・学校が再開されて、一時的に不登校が減少したが、再び増加の傾向にある。 ・復興の要は、学校の再建と子供の教育だという人が多い。この場でも何度も話を出しているが、教育委員会も含めて議論しないといけないと思う。 ・ご質問等お願いしたい。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・夏に自宅近くの公園で団地の子供たちと一緒にビニールプールで水遊びをさせて遊ばせていたところ、近所のおばあちゃんから、節電のさなかに子供たちを遊ばせてなんだと怒られてしまった。次の日から全くできなくなってしまった。 ・いつも見ていたアニメがなく津波の映像ばかりで、子供たちは情緒不安定になった。ようやく子ども向けの番組が放映されたが、この震災のさなかにとやはり不謹慎だと指摘される同様の話があった。 ・そのような状況の時にどのように対応すればいいのか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・子供のケアを中心におかなければ、真の復興にはならない。子供は非日常の生活を非常に恐れる。極力、非日常の生活から日常の生活へ戻していく必要がある。 ・PTSD を起こしている子供たちに対して影響したのは、繰り返し流される津波の映像だった。海が見られなくなった子供もいる。 ・子供や障害のある人など弱者を中心に置いた支援をどのように考えていくかということが必要。復興の要は、子供の支援。厳しい状況だからこそ、子供の笑顔や笑い声に大人は癒される。積極的に中心に置く必要がある。だから教育委員会に出席してもらいたいと話を出している。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋先生の訪問先の学校は、避難所の運営を学校が行なっている状況だったのか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう状況だった。ほとんどの教員は自宅に帰れず、学校で寝泊まりの生活。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市では、その辺りの運営のアンニュアルはまだできていないのか。

堀池委員	・ 不明。
秦委員	<p>・ 3 月の末に気仙沼に派遣され、先生の報告を受け、当時のことが思い出された。</p> <p>・ 学校が避難所になると、子供たちが次になってしまう。今の報告からも、子供中心の復興が肝心だということは、しみじみ感じた。</p> <p>・ 避難所となっていた学校へ立ち寄ると、衛生状態の悪い中、子供たちの姿はあまり見られなかった。</p> <p>・ 学校が避難所になると、そこから出ていかないとまずいということを認識した。違う場所が必要だと感じた。</p> <p>・ 管理者については、私が派遣された場所は市役所の職員となっていたが、学校の場合は、校長先生になってしまうのか。</p>
高橋会長	<p>・ そこが難しいところ。市町村立や県立によっても異なる。</p> <p>・ 石巻特別支援学校は、避難所ではないが、実際には障害のある人やその家族、関係者が多く利用していた。しかし、避難所ではないため、救援物資は学校の目の前を通りすぎていく。何度交渉してもダメだった。</p>
秦委員	・ 避難所では、白菜の段ボールが山積みで腐っている状況だった。お弁当が来るから、誰も食べないままだった。
矢野委員	・ 融通のある対応ができない。統括する場所がない。
秦委員	・ 小金井の組織図で言うと、避難所はどこ場所になるのか。
馬場委員	・ 整備します、となっている状況でまだ整備されていない。
堀池委員	<p>・ 横の連携の実際ができていない。</p> <p>・ 福祉保健部は、要援護者の問題が大きな課題だった。各課で動いているということが現状。</p> <p>・ 福祉保健部で情報の共有をして、認識していこうというところ。</p>
秦委員	<p>・ 災害発生時に、一気に避難所が立ち上がるが、個人の自宅や神社など自主的なミニ避難所もできている。東京都からの応援で、避難所の健康管理を行ったが、そうするとどこに避難所があるのかわからず、地元の人に尋ねながらだった。</p> <p>・ 市ごとに地区分担をし、この市のことは総括的に把握している、ということが必要だという話が出た。小金井市も組織的に考えていかないといけない。</p>
高橋会長	<p>・ 事務職の職員は裏方業務で手いっぱい。そのような職員をあてにするのではなく、市議や民生委員など誰かが出て、情報統括をしていかないといけない。中核的な部分を担う人間が必要。</p> <p>・ 90 歳の女性を 70 歳の男性がかついで逃げていった。機転がきくのが、やはり地域の住民だった。</p>
矢野副会長	・ 府中市は円筒の中に、カルテなどの情報として必要なものを入れ、その筒は冷蔵庫に入れて置くという決まりにした。玄関には、要援護者がいるということを貼り出しておく。その中身をみれば、その人がわかるという仕組みを作った。
堀池委員	・ 救急キットのことか。
高橋会長	・ そのような方向に舵を切るのか、個人情報に大事にするのかという決断をしなければならない。
堀池委員	・ その対象者はどのような人なのか。
矢野副会長	・ 玄関に貼り出すとなると個人情報の問題もある。
堀池委員	・ リアルタイムの情報を常に入れておかないといけない。

矢野副会長	・小金井市ではどのようなことができるのか、他の市も調査して始めてほしい。動かないといけない。
鈴木委員	・支援物資の不足の情報は、ツイッターやミクシー、フェイスブックなどでフォローし合っていると聞いている。市でもあるとよいと思う。
矢野副会長	・自主的な NPO のようなところでやっているのだと思う。
高橋委員	・そのようなことは、周囲の安心な地域から実施されている。後方支援という形。渦中にいる人たちがやっているのではない。
矢野副会長	・トイレの問題は、水の問題とセットになる。
中村委員	・9月12日に防災行政無線は、実施されたのか。
鈴木委員	・10時から3回にわけて放送されたはずだが、外出していてその有無は確認できなかった。
中村委員	・貫井北町と桜町で聞くようにしていたが、どちらからも聞こえなかった。聞こえなかったのか、やらなかったのか。
事務局 (藤井委員)	・実施されたが、鳴らなかったという状況だった。機器の不具合があったようで、現在確認中とのことだった。小金井市だけではなく、他のいくつかの市も同様の状況があったと聞いている。
中村委員	・今すぐ実施できる最低限のことはやってほしい。
高橋会長	・時間となったので本日の協議は終了とする。 ・次回は、それぞれの委員の立場で報告をお願いしたい。報告は、矢野副会長の書式を用いてほしい。書式のデータは事務局より送付する。2回目は、それぞれが分担し、報告する形を取りたい。分量は、1枚程度でよい。報告時間も短く。 ・作成した資料は、事前に事務局（そら）まで返送し、当日の配布資料とする。当日配布される場合は、20部コピーをお願いし、持参していただきたい。 ・11月21日の協議会は、防災についてのまとめとして、関係部署の方たちへの問題提起をしていきたいと思う。
堀池委員	・地域安全課の担当の出席を依頼する。
中村委員	・この形式に合わせた形がよいのか。
高橋会長	・変えてもよい。
中村委員	・計画停電がなくても、停電する可能性はある。電気がつかないことと水が出ないことはとても大変で、混乱を招く。その辺りについてもあがるとよいと思う。震災当日は、時間帯が日中だったこともあり、事なきを得たが、その後の問題はいろいろとあった。
矢野副会長	・計画停電の影響はあった。下校時間を変更したり、給食がつかれなかったり。
中村委員	・水は寸断される。電気・ガスも同様。
高橋会長	・そのような問題や課題について記入してほしい。
矢野副会長	・書きやすいように活用してほしい。
鈴木委員	・どのようなことを書けばよいのか。
高橋会長	・子育て関連のところで報告をお願いしたい。

3. 事務連絡

(1) 次回以降のスケジュールについて

高橋会長	・事務局よりお願いしたい。
事務局（伊藤）	・次回の会議は、10月30日（火）の14:00～16:00。場所は、前原暫定集会施設A会議室。

	<ul style="list-style-type: none"> ・第２回（仮）議事録の加筆・修正の期限は、９月３０日（日）までとなっている。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・１０月１日より、虐待防止法が施行される。小金井市としても補正を組み、予算計上した。議決決定次第、報告する。 ・自立支援協議会の意見も伺う機会や説明の時間を設けたいと思っている。協力をお願いしたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議は、これにて終了する。

以上